

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書②

岐阜県立池田高等学校

学校番号	20
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。																		
2 評価する領域・分野	<b>◇教育課程・学習指導</b>																		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	学校の教育目標である「持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成」に共感できる保護者は約8割であり、概ね理解されていると考えられる。しかし、その取り組みに対する理解は7割程度と若干下がっており、教育活動の成果について発信力を向上させる必要がある。																		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	生徒の主体的な学習態度と教員のICT能力を培うことで、確かな学力の伸長を図るとともに、福祉・国際・環境・防災の観点からのESD教育を推進する。																		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	企画委員会・教育課程委員会・各教科会・職員会議を通して全職員の意識の向上を図る。																		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標																		
①情報活用能力、およびICTを主体的に活用する力を育成すると同時に、ICT活用による個別最適化された授業の実践に向けた研究を活発化する。	① Ms Forms等を利用した生徒対象の授業アンケート（満足度調査）において、肯定的な評価80%以上。																		
②総合的な探究の時間ではICT機器や外部の教育プログラムを活用することで、多様な人々と協働し、地域社会の課題に対して自ら考え行動する力を身に付けさせる。	②総合的な探究の時間における外部の教育プログラムに対する肯定的な評価80%以上。																		
③ユネスコスクールとしてESDに取り組んできた実績を活用することで教科横断的な学校設定教科を設定し、SDGsの達成に必要な総合的な判断力・思考力を育てる。	③学校設定教科の構想に対する学校運営協議会の評価																		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価																	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 成績不振者に対し各考査終了後に補充授業や習熟度の高い生徒には放課後補習や個別指導を行った。1・2年生全員スタディサプリに加入させて、家庭学習を習慣づけるためにサプリの課題を多く出題した。初期指導を行うことで、生徒の中に時間や期限の厳守が定着した。</li> <li>• 授業改善においては、年2回の相互授業参観（校内公開授業週間）を定め、各教諭が最低1回は、他の教諭の授業参観を行った。また、生徒に授業改善アンケートを行い、特に定期テストによる各学力層ごとに理解度など評価を分析し、生徒の実態に即した授業が行えているかを確認した。</li> <li>• 生徒の実態に応じた習熟度編成（習熟クラス）や個別指導を行い、習熟の度合いに応じた分かり易い授業、力のつく授業を目指した。</li> <li>• ICT機器（プロジェクター・タブレット等）を活用することで学習意欲を高め、総合的な探究の時間等における調べ学習等で効果な活用方法を工夫した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学習指導において、きめ細かな指導ができたか。</li> <li>② 他の実践が自分の授業実践、生徒による授業評価を改善に生かしたか。</li> <li>③ 習熟の度合いに応じた分かり易い授業、力のつく授業の実践ができたか。</li> <li>④ ICT機器を利用によって、生徒の学習意欲が高まるような実践となったか。</li> </ul>	<table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">A</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">B</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">C</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">D</td> </tr> <tr> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">A</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">B</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">C</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">D</td> </tr> <tr> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">A</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">B</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">C</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">D</td> </tr> <tr> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">A</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">B</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">C</td> <td style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;">D</td> </tr> </table>		A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
A	B	C	D																
A	B	C	D																
A	B	C	D																
A	B	C	D																

<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsの達成に向けた教育を推進するため、授業内でSDGsとの関連を示したり、総合的な探究の時間において地域課題に取り組み地域の持続可能な発展について考えたりするなどの機会を設けた。</li> <li>単位制への改編に伴い、ユネスコスクールとしてESDに取り組んできた実績を活用することで教科横断的な学校設定教科を設定し、特色ある教育活動を行う教育課程について研究を行う。</li> </ul>	<p>⑤ 生徒がSDGsと学習内容を有機的に結び付け探究的な学習が行えたか。</p> <p>⑥ 新しい教育課程や学校設定教科について外部から肯定的な評価であったか</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p>
--	---	---

<p>11 成果・課題</p>	<p>○習熟クラスを各学年に設けているが、より力のつく実践を行うために、昨年に引き続き2年理科系習熟で成績基準を設け、成果が得られた。また学力層ごとの授業評価の分析により、一層生徒のニーズに応えた授業を実施することができた。</p> <p>○各職員がオンラインツールを用いて課題を配信するなど、生徒の学習状況を分析しより効率的なICT機器の利用に努めた。臨時的オンライン学習期間においても速やかな授業配信および課題配信ができた。</p> <p>○今年度より外部教育プログラムを併用し、生徒が地域課題に向き合う探究活動を実施し、探究の意義について7割以上の肯定的な評価を得た。</p> <p>▲学年単位での課題補充の効果もあり、課題の提出状況は良好であるが、生徒の家庭学習の習慣が身につけておらず、学習状況調査においても十分な学習時間が確保できていない。</p> <p>▲授業アンケートにおいてSDGsとの関わりを十分に生徒に説明できていない。学習活動すべてにおいてSDGsとの関わりを実感させたい。</p> <p>▲一人一台タブレットPCの効果的な利用方法の研究を全職員、全校体制で取り組む必要がある。</p>	<p>総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
-----------------	---	---

<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「総合的な探究の時間」をはじめ、すべての授業・行事において、今の学びがSDGsのどの目標と関りがあるかを教員、生徒が意識する。このESDの推進により、学ぶ意欲と学力の向上を図る。</li> <li>来年度からの単位制への改編に伴い、より生徒や地域のニーズに応じたカリキュラム作成に向けて研修を図りたい。学校設定教科については周辺教育機関や自治体など外部とのつながりを重視し協働した活動を活性化したい。</li> <li>基礎学力のさらなる定着のため、日々の授業において積み重ねを大切に、予習・復習・宿題のサイクルの定着を図る。これには、家庭学習を習慣づけることが不可欠である。各教科での工夫に加え、オンライン学習ツールのさらなる有効活用を職員全体で研究していくことが大切である。</li> </ul>
---

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和4年1月25日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <p>○学校をあげて授業改善及び生徒の学習習慣の定着の試みがなされ、その効果が上がっていることは高く評価できる。相互授業参観、授業アンケートの実施と分析、スタディサプリの活用を行い、現状を可視化・データ化することによって、生徒一人一人の現状(習熟度を含む)にあわせた教育の実践をめざし、実行されている点は評価できる。そこで、単位制を軌道にのせ、ESDをさらに積極的に推進し、ICT機器を上手活用することで、就職から国公立大学進学までの、多岐にわたる進路希望をもっている生徒に対し、個別最適な学びを実現するための授業研究を進めてほしい。また、授業や課外活動を通じて得られた知識や経験を公表できる場が少しずつ増えているのがよい。教える(発表・掲示)することにより、より深く学ぶことができると思うので、ぜひ続けてもらいたい。</p> <p>○家庭学習の充実が、小中学校においても課題であり、なかなか有効な手を見出すことができないのが現状である。塾へ行っている生徒の人数や目的などを参考に、単位制での習熟度別授業や特講の充実が、家庭学習の習慣化につながるのではないかと考える。</p>
---